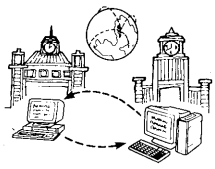
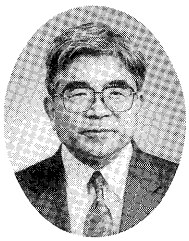
巻頭言



会長就任にあたって



野口正一†

このたび，会員の多数の方々からの御推薦を頂き，伝統ある本学会の会長の重責を担うことになりました．激動のこの時代に改めて会長としての責任を思うとき，身が引き締まる思いで一杯であります．幸いにも本学会には当学会の発展のためにこれまで御尽力くださった多くの先輩の方々の努力と，大きな実績があります．この上に本学会は我が国の情報・通信の分野で確固たる基盤を作ることができました．このことは私にとって大変に心強いものであります．さらに学識経験の豊かな副会長を始めとする有為な理事役員の方々，および練達な事務局の方々の助力もあります．さらに大事なことは本学会の活動に積極的な御支援をいただける会員の皆様の暖かい御協力もあります．

このようななかで，本学会のより一層の発展のため，全力を尽くす所存でございますので是非とも宜しくお願い申し上げます．

1990年頃まで日本の情報・通信産業は文字通りハイテク日本の象徴として我が国の産業をリードしてきたわけでありますが，バブルの崩壊，円高の影響をはじめとする多くの外的要因により，この光が失われつつあるように思えることは大変に残念なことであります．要因をさらに分析すれば，大きい技術革新が産業のあらゆる分野に影響し，産業構造の大きい地殻変動を誘引したことにあります．我が国の情報・通信産業が再び光を取り戻し，21世紀に向けて世界のリーディングカントリーとして地位を確立すること．これが今後我々に与えられた大きい問題であります．これに対する最も重要な解決法は言うまでもなく21世紀のマルチメディア時代に向けて，世界を先導できる技術の研究・開発であります．そしてこの中で最も中枢の機能を果たさなければならないのが本学会であります．我が国のコンピュータの発展の歴史の中で，中心となる技術は基本的にはアメリカで開発されたものであります．現状のままでは今後5年，10年先も同様の状況が続くことになりましょう．

このような現状の中で日本の英知を結集できる本学会は何を為すべきなのでしょうか．

我が国に於ける情報・通信分野の研究・開発において最も中枢となる会員から構成される本学会こそこの問題に対し，具体的な回答を与えなければなりません．十分な議論を通して具体的な方策を皆様とともに考え，実践してゆきたいと思います．

当面次の4項目が重要なテーマでありましょう．

第1が21世紀のマルチメディア時代における世界の先導的な技術の開発，特に共通プラットフォームの構築問題．このための提言と，研究・開発の新しい産学官協力の体制を作る本学会の支援．

第2が新しい情報・通信技術の成果をできる限り速やかに会員に情報提供できる体制と啓蒙運動．

第3が本学会が行ってきた情報処理教育のための基本問題を，大学のみでなく，小・中・高校を含めて今後日本全体における情報処理教育の問題として捉えての提言．

第4が新しい国際化のより一層の推進．アメリカ，ヨーロッパの諸学会との連携は当然のことながら，今後特にアジア地域の諸学会との連携．

以上の4項目が当面の目的と考えております．

勿論当学会が直面している財政問題を含めて多くの問題があります．これらの解決も重要な事項であります．

いずれにしても，以上の問題を解決してゆくためには，役員の方々はもとより，会員の皆様のご協力が必須です．本学会のより一層の発展のために，改めて皆様のご支援・ご協力を重ねてお願いする次第であります．

（平成7年5月11日）

†本会会長　日本大学